

農地等整備・保全推進事業費補助金等交付要綱

農林水産事務次官依命通知

制定 平成20年 4月 1日付け19農振第1969号

最終改正 平成21年 5月29日付け21農振第 460号

第1 農林水産大臣は、農地、農業用水及び農業用施設の整備・保全の推進、農山漁村地域の振興を促進する等のため、農地等整備・保全推進に要する経費及び農村振興対策事業に要する経費に対し、予算の範囲内において補助事業者に補助金を交付するものとし、その交付に関しては、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（昭和30年法律第179号。以下「適正化法」という。）、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律施行令（昭和30年政令第255号。以下「適正化法施行令」という。）、農林畜水産業関係補助金等交付規則（昭和31年農林省令第18号。以下「規則」という。）、予算科目に係る補助金等の交付に関する事務について平成12年度予算に係る補助金等の交付に関するものから地方農政局長に委任した件（平成12年6月23日農林水産省告示第899号）及び予算科目に係る補助金等の交付に関する事務について平成12年度予算に係る補助金等の交付に関するものから沖縄総合事務局長に委任した件（平成12年6月23日農林水産省告示第900号）に定めるもののほか、この要綱の定めるところによる。

第2 第1に規定する経費及びこれに対する補助率は、別表に定めるとおりとする。

第3 別表の事業の欄に掲げる事業の予算科目は次の科目をいう。

事 業	予 算 科 目
農地等整備・保全推進事業	農地等整備・保全推進事業費補助金
農村振興対策事業	農村振興対策事業費補助金
	農村振興対策地方公共団体事業費補助金
	農村振興対策整備費補助金

第4 次に掲げる流用をしてはならない。

- (1) 別表の事業の欄に掲げる事業に係る経費の相互間の流用
- (2) 別表の経費の欄に掲げる同表の事業の欄の1の事業に対応する経費のうち(1)から(10)までの経費の相互間の流用
- (3) 別表の経費の欄に掲げる同表の事業の欄の2の事業に対応する経費のうち(1)から(19)までの経費の相互間の流用
- (4) 別表の経費の欄に掲げる同表の事業の欄の1の事業に対応する経費のうち(2)のイからウまでの経費の相互間の流用
- (5) 別表の経費の欄に掲げる同表の事業の欄の1の事業に対応する経費のうち(2)のイの(ア)から(ウ)までの経費の相互間の流用

- (6) 別表の経費の欄に掲げる同表の事業の欄の1の事業に対応する経費のうち(7)のア及びイの経費の減ともなうウへの流用及びアの(ア)から(オ)までと(カ)の経費の相互間の流用
- (7) 別表の経費の欄に掲げる同表の事業の欄の1の事業に対応する経費のうち(8)のアとイの経費の相互間の流用

第5 適正化法第5条、適正化法施行令第3条及び規則第2条に規定する申請書の様式は、別記様式第1号のとおりとする。

2 前項の申請書は、補助事業者の主たる事務所の所在地を管轄する地方農政局長等（北海道に主たる事務所が所在する補助事業者及び別記に掲げる補助事業者にあつては農林水産大臣、沖縄県に主たる事務所が所在する補助事業者にあつては内閣府沖縄総合事務局長（以下「沖縄総合事務局長」という。以下同じ。））に正副2部提出しなければならない。

3 補助事業者は、前項の申請書を提出するに当たって、各事業主体において当該補助金に係る仕入れに係る消費税等相当額（補助対象経費に含まれる消費税及び地方消費税に相当する額のうち、消費税法（昭和63年法律第108号）に規定する仕入れに係る消費税額として控除できる部分の金額と当該金額に地方税法（昭和25年法律第226号）に規定する地方消費税率を乗じて得た金額との合計額に補助率を乗じて得た金額をいう。以下同じ。）があり、かつ、その金額が明らかな場合には、これを減額して申請しなければならない。

ただし、申請時において当該補助金に係る仕入れに係る消費税等相当額が明らかでないもの（事業主体に係る部分）については、この限りでない。

第6 規則第2条の規定による申請書の提出の時期は、毎年度補助事業者の主たる事務所に所在地を管轄する地方農政局長等が別に定める日までとする。

第7 補助事業者は、規則第3条第1号の規定に基づき地方農政局長等の承認を受けようとする場合には、別記様式第2号による変更承認申請書正副2部を地方農政局長等に提出しなければならない。

第8 規則第3条第1号イ及びロの農林水産大臣が定める軽微な変更は、別表の軽微な変更の欄に掲げるとおりとする。

第9 補助事業者は、規則第3条第2号の規定に基づき地方農政局長等の指示を求める場合には、補助事業の遂行状況とともに、補助事業が予定の期間内に完了しない理由又は補助事業の遂行が困難となった理由を記載した書類正副2部を地方農政局長等に提出しなければならない。

第10 適正化法第12条の規定に基づく報告は、補助金の交付のあった年度の12月31日現在において別記様式第3号により事業遂行状況報告書を作成し、当該年度の1月31日までに正副2部を地方農政局長等に提出しなければならない。

ただし、地方農政局長（北海道に主たる事務所が所在する補助事業者及び別記に掲げる補助事業者にあつては農林水産省農村振興局長、沖縄県に主たる事務所が所在する補助事業者にあつては沖縄総合事務局長）が別に定める概算払請求書をもって代えることができるものとする。

第11 規則第6条第1項に規定する実績報告書の様式は、別記様式第4号によるものとし、正副2部を地方農政局長等へ提出するものとする。

2 第5の3ただし書により交付の申請をした補助事業者は、実績報告を行うに当たって、当該補助金に係る消費税仕入控除税額（補助対象経費に含まれる消費税相当額のうち、消費税法に規定する仕入れに係る消費税として控除できる部分の金額に補助率を乗じて得た額をいう。以

下同じ。)が明らかになった場合には、これを交付金額から減額して地方農政局長等へ報告しなければならない。

- 3 補助事業者は、実績報告の提出後に、消費税の申告により当該補助金に係る消費税仕入控除税額が確定した場合には、その金額（前項により減額した場合にあっては、その金額が減じた金額を上回る部分の金額）を別記様式第5号により仕入れに係る消費税等相当額報告書を作成し、速やかに地方農政局長等に報告するとともに、地方農政局長等の返還命令を受けて、これを返還しなければならない。

第12 適正化法施行令第13条第4号の規定に基づく農林水産大臣の定める財産は、1件の取得価格が50万円以上の機械及び器具とする。

第13 規則第3条第4号に規定する帳簿及び証拠書類又は証拠物は、補助事業終了の年度の翌年度から起算して5年間整備保管しなければならない。

ただし、補助事業により取得し、又は効用の増加した財産で規則で定める処分制限期間を経過しない場合においては、別記様式第6号の財産管理台帳その他関係書類を整備保管しなければならない。

第14 補助事業により取得し、又は効用の増加した財産については、補助事業完了後においても善良なる管理者の注意をもって管理するとともに、補助金交付の目的に従って、その効率的な運営を図らなければならない。

なお、当該財産のうち第12に規定する財産及び適正化法施行令第13条に規定するその他の財産については、規則に規定する期間内において、地方農政局長等の承認を受けて処分したことにより収入のあったときは、当該収入の全部又は一部を国に納付させることがある。

第15 交付決定額の下限は、3,500万円とする。

ただし、交付先の選定を公募により行うもの及び地方農政局長等が特に必要と認めるものについては、この限りではない。

- 2 補助事業者は、本交付要綱の補助事業に係る間接補助金の交付の決定をする場合においては、本事業の効率的かつ重点的な推進が図られるよう留意するものとする。

第16 補助事業者のうち一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律（平成18年法律第50号）第42条第2項に規定する特例民法法人である場合は、この補助金に係る補助金等支出明細書（別記様式第7号）を作成し、別に作成する「国からの補助金等全体の金額及びその年間収入に対する割合を示す書類」に添付した上で、計算書類等と併せて事務所に備え付けて公開するとともに、補助金の交付を受けた年度の翌年度の6月末日までに1部を農林水産大臣に提出するものとする。

別記

別表の経費の欄に掲げる同表の事業の欄の1の事業に対応する経費のうち(1)、(2)、(4)、(6)、(8)、(9)及び(10)の経費により事業を実施する補助事業者

別表の経費の欄に掲げる同表の事業の欄の1の事業に対応する経費のうち(3)の経費により事業を実施する補助事業者のうち都道府県土地改良事業団体連合会及び都道府県水土里情報利活用協議会以外の補助事業者

別表の経費の欄に掲げる同表の事業の欄の1の事業に対応する経費のうち(5)の経費により戦略的産地振興支援事業実施要綱（平成18年4月3日付け17農振第1940号農林水産事務次官依命通知）第2の2の(2)及び(3)のアの規定により事業実施する補助事業者

別表の経費の欄に掲げる同表の事業の欄の2の事業に対応する経費のうち(1)、(4)、(7)、(9)、(11)、(12)、(13)、(14)、(17)及び(19)のウの経費により事業を実施する補助事業者

別表（第2関係）

事業	経費	補助率	軽微な変更	
			経費の配分の変更	事業の内容の変更
			次に掲げる変更以外の変更	次に掲げる変更以外の変更
1 農地等整備・保全推進事業	(1) 高機能型農業水利施設支援対策事業費 補助事業者が高機能型農業水利施設支援対策事業実施要綱（平成18年4月3日付け17農振第2110号農林水産事務次官依命通知）第3の規定に基づいて行う事業に要する経費	定額		
	(2) 土地改良施設機能更新等円滑化対策事業費 ア 補助事業者が土地改良施設機能更新等円滑化対策事業実施要綱（平成18年4月3日付け17農振1946号農林水産事務次官依命通知）第3の1の規定に基づいて行う事業に要する経費 イ 補助事業者が土地改良施設機能更新等円滑化対策事業実施要綱（平成18年4月3日付け17農振1946号農林水産事務次官依命通知）第3の2の規定に基づいて行う事業に要する経費及び第3の3の(1)から(3)までの規定に基づいて行う事業に要する次の経費 （ア）土地改良施設機能更新等円滑化対策検討委員会・法律相談事業費 （イ）土地改良施設用地情報収集事業費 （ウ）土地改良施設用地調整推進事業費 ウ 補助事業者が土地改良施設機能更新等円滑化対策事業実施要綱（平成18年4月3日付け17農振1946号農林水産事務次官依命通知）第3の	定額		

3の(4)の規定に基づいて行う事業に要する経費

(3) 水土里情報利活用促進事業費 定 額

補助事業者が水土里情報利活用促進事業実施要綱(平成18年4月3日付け17農振第2015号農林水産事務次官依命通知)第2の規定に基づいて行う事業に要する経費

(4) 食料供給基盤保全管理対策支援事業費 定 額

補助事業者が食料供給基盤保全管理対策支援事業実施要綱(平成21年4月1日付け20農振第2331号農林水産事務次官依命通知)第2の規定に基づいて行う事業に要する経費

(5) 戦略的産地振興支援事業費 定 額

補助事業者が戦略的産地振興支援事業実施要綱(平成18年4月3日付け17農振第1940号農林水産事務次官依命通知)第2の1の規定に基づいて行う事業に要する経費

(6) 国営造成施設等保全・更新円滑化対策事業費 定 額

補助事業者が国営造成施設等保全・更新円滑化対策事業実施要綱(平成21年4月1日付け20農振第2134号農林水産事務次官依命通知)第2の規定に基づいて行う事業に要する経費

(7) 農地有効利用支援補完整備事業費

補助事業者及び農地有効利用支援補完整備事業実施要綱(平成21年4月1日付け20農振第2183号農林水産事務次官依命通知)第3に規定する事業実施主体が第2の規定に基づいて行う事業に要する次の

経費の欄に掲げるアの(ア)、(イ)、(ウ)、(エ)及び(オ)の経費のそれぞれについての30%を超える増減

経費

ア 工事に係る経費

- (ア) 工事費
- (イ) 測量及び試験費
- (ウ) 用地費及び補償費
- (エ) 船舶及び機械器具費
- (オ) 営繕費
- (カ) 工事雑費

(1) 当該間接補助事業費の1/2以内
(2) 沖縄県、奄美群島、離島、特別豪雪地帯、振興山村、半島振興対策実施地域、過疎地域、特定農山村地域又は急傾斜畑地帯においては、(1)の規定にかかわらず本表の欄外に記載するとおりとする。

イ 現地指導等に係る経費

定 額

ウ 附帯事務費

当該補助事業費又は当該間接補助事業費の1/2以内

(8) 経営安定対策基盤整備緊急支援事業費

定 額

ア 補助事業者が経営安定対策基盤整備緊急支援事業実施要綱（平成21年4月1日付け20農振第2265号農林水産事務次官依命通知）第3の規定に基づいて行う事業に要する経費

イ 補助事業者が経営安定対策基盤整備緊急支援事業実施要綱別紙第5の2の(2)の規定に基づいて行う事業に要する経費

(9) 基盤整備関連流動化推進

定 額

	<p>事業費</p> <p>補助事業者が経営体育成促進事業実施要綱（平成15年4月1日付け14農振第2431号農林水産事務次官依命通知）第2の2の規定に基づいて行う事業に要する経費</p>			
	<p>(10) 土地改良負担金償還特別緊急支援対策事業費</p> <p>補助事業者が土地改良負担金償還特別緊急支援対策事業実施要綱（平成21年5月29日付け21農振第487号農林水産事務次官依命通知）第3の規定に基づいて行う土地改良負担金特別緊急対策基金の造成に要する経費</p>	定 額		
2 農村振興 対策事業	<p>(1) 田園歴史的風致土地利用推進事業費</p> <p>補助事業者が田園歴史的風致土地利用推進事業実施要綱（平成21年4月1日付け20農振第2061号農林水産事務次官依命通知）第2の規定に基づいて行う事業に要する経費</p>	定 額	<p>(1) 事業費の3割を超える経費の増減</p> <p>(2) 事業実施主体の変更</p> <p>(3) 事業の中止又は廃止</p>	
	<p>(2) 小規模・高齢化集落支援モデル事業費</p> <p>補助事業者が小規模・高齢化集落支援モデル事業実施要綱（平成20年4月1日付け19農振第1959号農林水産事務次官依命通知）第2の規定に基づいて行う事業に要する経費</p>	定 額		
	<p>(3) 農村コミュニティ再生・活性化支援事業費</p> <p>補助事業者が農村コミュニティ再生・活性化支援事業実施要綱（平成18年4月3日付け17農振第2170号農林水産事務次官依命通知）第3の規定に基づいて行う事業に要する次の経費</p> <p>ア 都市から農村への定住等の促進</p>	当該補助事業に要する経費の2分の1以内	<p>経費の欄に掲げるア及びイの経費の流用</p> <p>経費の欄に掲げるアの(ア)、(イ)、(ウ)、</p>	事業主体の変更

<p>(ア) 定住や長期滞在の促進方策策定、新規住民を活用した集落の活性化方策の検討</p> <p>(イ) 支援体制の構築</p> <p>(ウ) P R活動の実施</p> <p>(エ) 新規住民等による地域文化活動や農ある暮らしの実施のための体制整備</p> <p>(オ) 新規住民の起業を促進するための体制整備</p> <p>(カ) 企業等との連携によるS O H O的農山漁村居住体制の整備</p> <p>イ 地域産業との連携の推進</p> <p>(ア) 異業種連携の推進</p> <p>(イ) 多様な主体による地域連携活動の促進</p> <p>(ウ) 人材バンクの設置・運営</p>		<p>(エ)、(オ)及び(カ)の経費のそれぞれについての30%を超える増減</p>	
<p>(4) 賑わいある美しい農山漁村づくり推進事業費</p> <p>補助事業者が賑わいある美しい農山漁村づくり推進事業実施要綱（平成20年4月1日付け19農振第2100号農林水産事務次官依命通知）第2の規定に基づいて行う事業に要する経費</p>	<p>定 額</p>	<p>事業費の30%を超える経費の増減</p>	<p>(1) 事業実施主体又は事業実施機関の変更</p> <p>(2) 事業の中止又は廃止</p>
<p>(5) 農村振興整備調査推進事業費</p> <p>補助事業者が農村振興整備調査推進事業実施要綱（平成20年4月1日付け19農振第1939号農林水産事務次官依命通知）第2の規定に基づいて行う事業に要する経費</p>	<p>定 額</p>		<p>(1) 事業実施主体又は事業実施機関の変更</p> <p>(2) 事業の中止又は廃止</p>
<p>(6) ^{ふるさと}農山漁村地域力発掘支援モデル事業費</p> <p>補助事業者が^{ふるさと}農山漁村地域力発掘支援モデル事業実施要綱（平成20年4月1日付け19農振第1876号農林水産事務次官依命通知）第2の規定に基づいて行う事業に要する経費</p>	<p>定 額</p>		

<p>(7) 農村活性化人材育成派遣支援モデル事業費 補助事業者が農村活性化人材育成派遣支援モデル事業実施要綱（平成21年1月27日付け20農振第1569号農林水産事務次官依命通知）第2の規定に基づいて行う事業に要する経費</p>	<p>定 額</p>		<p>農村活性化人材育成派遣支援モデル事業実施要綱第2の1及び2に掲げる事業のいずれかの中止又は新たな実施</p>
<p>(8) 農村地域就業機会創出支援事業費 補助事業者が農村地域就業機会創出支援事業実施要綱（平成21年4月1日付け20農振第2211号農林水産事務次官依命通知）第2の規定に基づいて行う事業に要する経費</p>	<p>定 額</p>		
<p>(9) 子ども農山漁村交流プロジェクト対策事業費 補助事業者が子ども農山漁村交流プロジェクト対策事業実施要綱（平成21年4月1日付け20農振第2241号農林水産事務次官依命通知）第2の規定に基づいて行う事業に要する経費</p>	<p>定 額</p>		
<p>(10) グリーン・ツーリズム促進等緊急対策事業費 補助事業者がグリーン・ツーリズム促進等緊急対策事業実施要綱（平成21年5月29日付け21農振第468号農林水産事務次官依命通知）第2の規定に基づいて行う事業に要する経費</p>	<p>定 額</p>		
<p>(11) 景観・自然環境保全形成支援事業費 ア 補助事業者が景観・自然環境保全形成支援事業実施要綱（平成19年4月2日付け18農振第1889号農林水産事務次官依命通知）第2の1、第2及び3の(2)の規定に基づいて行う事業に要する経費</p>	<p>定 額</p>		

イ 補助事業者が景観・自然環境保全形成支援事業実施要綱第2の3の(1)の規定に基づいて行う事業に要する経費	当該補助事業に要する経費の2分の1以内
(12) 農業用水の自然エネルギーの活用支援事業費 補助事業者が農業用水の自然エネルギーの活用支援事業実施要綱（平成19年4月2日付け18農振第1912号農林水産事務次官依命通知）第2の規定に基づいて行う事業に要する経費	定 額
(13) 小水力発電工事等技術強化対策事業費 補助事業者が小水力発電工事等技術強化対策事業実施要綱（平成21年4月1日付け20農振第2180号農林水産事務次官依命通知）第2の規定に基づいて行う事業に要する経費	定 額
(14) グラウンドワーク推進支援事業費 補助事業者がグラウンドワーク推進支援事業実施要綱（平成17年4月1日付け16農振第2079号農林水産事務次官依命通知）第2の規定に基づいて行う事業に要する経費	定 額
(15) 農村地域IT化推進支援事業費 補助事業者が農村地域IT化推進支援事業実施要綱（平成19年4月2日付け18農振第1973号農林水産事務次官依命通知）第2の規定に基づいて行う事業に要する経費	定 額
(16) 低炭素むらづくりモデル支援事業費 補助事業者が低炭素むらづくりモデル支援事業実施要綱（平成21年4月1日付け20農振第2141号農林水産事務次官依命通	ハード 当該補助事業に要する経費の2分の1以内 ソフト

知) 第2の1の規定に基づいて行う事業に要する経費	定 額		
(17) 農村振興総合整備推進事業費 団体営調査設計事業実施要綱(平成21年3月31日付け20農振第2092号農林水産事務次官依命通知)第3の表の2の規定に基づいて行う事業に要する経費	定 額		
(18) 農業集落排水水質保全効果発揮促進事業費 補助事業者が農業集落排水水質保全効果発揮促進実施要綱(平成21年4月1日付け20農振第2139号農林水産事務次官依命通知)第2の規定に基づいて行う事業に要する経費	当該補助事業に要する経費の2分の1以内 ただし1戸あたりの助成額は35万円を上限とする。		
(19) 農業農村整備における再生可能エネルギー導入支援モデル事業費 ア 補助事業者が農業農村整備事業における再生可能エネルギー導入支援モデル事業実施要綱(平成21年5月29日付け21農振第513号農林水産事務次官依命通知)第2の1の(1)及び(3)の規定に基づいて行う事業に要する経費	定 額		
イ 補助事業者が農業農村整備における再生可能エネルギー導入支援モデル事業実施要綱第2の1の(2)の規定に基づいて行う事業に要する経費	定 額		
ウ 補助事業者が農業農村整備における再生可能エネルギー導入支援モデル事業実施要綱第2の2の規定に基づいて行う事業に要する経費	定 額		

事業欄1農地等整備・保全推進事業の経費欄(7)農地有効利用支援補完整備事業費の補助率欄(2)に規定する補助率は次のとおりである。

(1) 沖縄県において行うものにあつては、当該間接補助事業費の80%

(2) 奄美群島(奄美群島振興特別措置法(昭和29年法律第189号)に基づく指定地域をいう。)において行

うものにあつては奄美群島において行うものにあつては、当該間接補助事業費の60%

- (3) 離島（離島振興法（昭和28年法律第72号）第2条第1項の規定に基づき離島振興対策実施地域として指定された離島をいう。）、特別豪雪地帯（豪雪地帯対策特別措置法（昭和37年法律第73号）第2条第2項の規定に基づき指定された地域をいう。）、振興山村（山村振興法（昭和40年法律第64号）第7条第1項の規定に基づき指定された地域をいう。）、半島振興対策実施地域（半島振興法（昭和60年法律第63号）第2条第1項の規定に基づき指定された地域をいう。）、過疎地域（過疎地域自立促進特別措置法（平成12年法律第15号）第2条第1項に規定する過疎地域（同法第33条第1項又は第2項の規定により過疎地域とみなされる区域を含み、平成12年度から16年度までの間に限り、同法附則第5条第1項に規定する特定市町村（同法附則第6条又は第7条の規定により特定市町村と見なされる区域を含む）を含む。）をいう。）、特定農山村地域（特定農山村地域における農林業等の活性化のための基盤整備の促進に関する法律（平成5年法律第72号）第2条第1項に規定する特定農山村地域をいう。）又は急傾斜畑地帯（受益地域内の平均傾斜度が15度以上の地域（水田地帯を除く。）をいう。）において行うものにあつては、当該間接補助事業費の55%

別記様式第1号(第5関係)(その17)

平成 年度農地等整備・保全推進事業費補助金等(農山漁村地域力発掘支援モデル事業)交付申請書

番 年 月 日

農林水産大臣 殿

住 所
団 体 名 氏 名 印
代 表 者 名 氏 名 印

平成 年度において、下記のとおり事業を実施したいので、農地等整備・保全推進事業費補助金等交付要綱第5の規定により、補助金 円の交付を申請する。

記

1 事業の目的

2 事業の内容

(1) 第三者委員会の設置及び運営(実績)

事 項	開催場所	開催時期	内 容	参加人数	摘 要

(2) 指導助言・アドバイザー派遣
ア 指導助言体制の構築(実績)

事 項	内 容	摘 要

注：実績報告では、指導助言の回数等を併せて報告すること。

イ アドバイザー派遣体制の構築(実績)

事 項	内 容	摘 要

注：実績報告では、アドバイザー派遣の回数及び内容等を併せて報告すること。

(3) モデル的な活動の全国への情報発信(実績)

事 項	内 容	摘 要

3 経費の配分

区 分	補助事業に要する経費（補助事業に要した経費）	負 担 区 分		積算の基礎	備 考
		国庫補助金（A）	その他（B）		
	円	円	円	円	
(1) 第三者委員会の設置及び運営 (2) 指導助言・アドバイザー派遣 (3) モデル的な活動の全国への情報発信					
合 計					

（注）備考欄には仕入れに係る消費税等相当額について、これを減額した場合には「減額した金額」を、同税額がない場合は「該当なし」と、同税額が明らかでない場合には「含税額」とそれぞれ記入すること。

4 事業完了（予定）年月日

5 収支予算（精算）

(1) 収入の部

区 分	本年度予算額 (本年度精算額)	(本年度予算額)	比 較 増 減		備 考
			増	減	
国庫補助金 自己負担金	円	円	円	円	
合 計					

欄は交付申請の際には記入不要。

(2) 支出の部

区 分	本年度予算額 (本年度精算額)	(本年度予算額)	比 較 増 減		備 考
			増	減	
(1) 第三者委員会の設置及び運営 (2) 指導助言・アドバイザー派遣 (3) モデル的な活動の全国への情報発信	円	円	円	円	
合 計					

欄は交付申請の際には記入不要。

6 添付資料

- (1) 補助事業者の寄附行為、定款等の団体規程
- (2) 資産及び負債に関する事項
- (3) 収支予算（収支決算）

（注）計画変更及び実績報告の場合にあつては、これらに変更のあつた場合のみ添付すること。

別記様式第1号(第5関係)(その18)

平成 年度農地等整備・保全推進事業費補助金等(農山漁村地域力発掘支援モデル事業)
交付申請書

番 号
年 月 日

(注) 地域協議会が農山漁村地域力発掘支援モデル事業実施要綱(平成20年4月1日付け19農振第1876号農林水産事務次官依命通知)第2の1の規定に基づき行う事業の場合はこの様式を使用すること。

地方農政局長 殿

(北海道に主たる事務所が所在する団体にあつては農林水産大臣
沖縄県に主たる事務所が所存する団体にあつては内閣府沖縄総合事務局長)

住 所
団 体 名
代表者名 氏 地域協議会 名 印

平成 年度において、下記のとおり事業を実施したいので、農地等整備・保全推進事業費補助金等交付要綱第5の規定により、補助金 円の交付を申請する。

記

1 事業の目的

2 事業の内容

- (1) ふるさとづくり計画の策定
- (2) 実践活動計画

3 経費の配分

区 分	補助事業に要する経費(補助事業に要した経費) (A+B)	負 担 区 分		積算の基礎	備考
		国庫補助金 (A)	その他 (B)		
1 ふるさとづくり計画策定 (1) (2)	円	円	円	円	
2 実践活動 (1) (2)					
合 計					

(注) 備考欄には仕入れに係る消費税等相当額について、これを減額した場合には「減額した金額」を、同税額がない場合は「該当なし」と、同税額が明らかでない場合には「含税額」とそれぞれ記入すること。

(記載要領)

- 1. 区分欄の「1 ふるさとづくり計画策定」は、農山漁村地域力発掘支援モデル事業実施要領第6に定める別記様式第1号の添付資料2における「2 支出の部」の区分欄に従って記入すること。
- 2. 区分欄の「2 実践活動」は、農山漁村地域力発掘支援モデル事業実施要領第6に定める別記様式第6号の別紙における「第4 事業実施計画」に掲げる活動事項毎に記入すること。

4 事業完了(予定)年月日

5 収支予算(精算)

(1) 収入の部

区 分	本年度予算額 (本年度精算額)	(本年度予算額)	比較増減		備考
			増	減	
国庫補助金 (1)ふるさとづくり計画策定 (2)実践活動	円	円	円	円	
自己負担金					
収 益 金					
合 計					

欄は交付申請の際には記入不要

(2) 支出の部

区 分	本年度予算額 (本年度精算額)	(本年度予算額)	比較増減		備考
			増	減	
1 ふるさとづくり計画策定	円	円	円	円	
2 実践活動 (1) (2)					
合 計					

欄は交付申請の際には記入不要

(3) 交付申請額(実績報告額)算定表

区 分	国庫補助金収入 A	自己負担金 B	支出額 C	小 計 D=C-A-B	収益金 E	純利益 F=E-D	交付申請額 (実績報告()) G=A-F
ふるさとづくり 計 画 策 定	円	円	円	円	円	円	円
実 践 活 動							
合 計							

G欄における実績報告では、「F欄の額(純利益) 0」の場合にはA欄の額を記入すること。

別記様式第2号（第7関係）

（1. 補助事業に要する経費の配分の変更又は内容を変更しようとする場合）

平成 年度農地等整備・保全推進事業費補助金等（ 事業）変更承認申請書

番 号
年 月 日

地方農政局長 殿

〔 農林水産大臣の交付決定を受けている場合は農林水産大臣、内閣府沖縄総合事務局長の交付決定を受けている場合は内閣府沖縄総合事務局長 〕

〔 住 所
団 体 名
代 表 者 名 印 〕

平成 年 月 日付け 第 号で交付決定通知のあった農地等整備・保全推進事業費補助金等については、農地等整備・保全推進事業費補助金等交付要綱第7の規定に基づき下記のとおり計画を変更し [金 円] の追加交付（減額承認）を受けたいので、承認されたく申請する。

なお、その他については、申請書記載のとおりとする。

（注）金額の変更のない場合は [] の部分を除くこと。

記

1 変更の理由

2 変更計画の内容

（以下別記様式第1号（その1）から（その31）までの記に準じて作成すること。）

（注）1 表題の 事業には、交付申請書の事業名を記載すること。

2 変更事項についてのみ作成し、変更に係る部分について変更前を括弧書で上段に記載すること。

（2．補助事業を中止し、又は廃止しようとする場合）

平成 年度農地等整備・保全推進事業費補助金等（ 事業 ）変更承認申請書

番 号
年 月 日

地方農政局長 殿

〔 農林水産大臣の交付決定を受けている場合は農林水産大臣、内閣府沖縄総合事務局長の交付決定を受けている場合は内閣府沖縄総合事務局長 〕

〔 住 所
団 体 名
代 表 者 名 印 〕

平成 年 月 日付け 第 号で交付決定通知のあった農地等整備・保全推進事業費補助金等については、農地等整備・保全推進事業費補助金等交付要綱第7の規定に基づき下記のとおり中止（廃止）したいので、承認されたく申請する。

記

- 1 中止（廃止）の理由
- 2 中止（廃止）に伴う経費の配分の内容

（注）表題の 事業には、交付申請書の事業名を記載すること。

平成 年度農地等整備・保全推進事業費補助金等（ 事業）遂行状況報告書

番 号
年 月 日

地方農政局長 殿

〔農林水産大臣の交付決定を受けている場合は農林水産大臣、内閣府沖縄総合事務局長の交付決定を受けている場合は内閣府沖縄総合事務局長〕

〔住所
団体名
代表者名 印〕

平成 年 月 日付け 第 号で交付決定通知のあった農地等整備・保全推進事業費補助金等について農地等整備・保全推進事業費補助金等交付要綱第10の規定に基づき、下記のとおり事業遂行状況を報告する。

記

区 分	計画事業費 A	出来高事業費 B	進捗度 B / A	残高事業費	摘 要
	円	円	%	円	

事業着手年月日： _____

事業完了予定年月日： _____

- （注）1 表題の 事業には、交付申請書の事業名を記載すること。
2 区分欄には、別記様式第1号の（その1）から（その31）までの記の「3経費の配分」に記載された事項について記載すること。

平成 年度農地等整備・保全推進事業費補助金等(事業)実績報告書

番 号
年 月 日

地方農政局長 殿

〔農林水産大臣の交付決定を受けている場合は農林水産大臣、内閣府沖縄総合事務局長の交付決定を受けている場合は内閣府沖縄総合事務局長〕

〔住所
団体名
代表者名 印〕

平成 年 月 日付け 第 号をもって補助金交付決定通知のあった農地等整備・保全推進事業費補助金等について、下記のとおり事業を実施したので、農地等整備・保全推進事業費補助金等交付要綱第11の規定により、その実績を報告する。

(なお、併せて精算額 円の交付を請求する。)

記

(注)

- 1 表題の 事業には、交付申請書の事業名を記載すること。
- 2 記の記載事項は、交付申請書様式の記の記載要領に準ずる。
ただし、交付申請書と実績報告書の内容に変更がない場合に限り、記の記載内容を以下のとおりとし、それ以外の記載を不要とする。

なお、参考として交付申請書の写しを添付すること。

(記の記載内容)

平成 年 月 日付けで提出した 事業交付申請書の記載内容に従い、事業を実施した。

事業の目的、事業の内容及び実績、経費の配分及び負担区分、事業完了年月日、収支予算については、 事業交付申請書の記載内容と同じであった。

- 3 添付資料については、各事業費の根拠となる支払経費ごとの内訳を記載した資料又は帳簿の写しを添付すること。

また、このほか、補助金交付申請書又は変更承認申請書に添付したのから変更があったものについては、必要書類を添付すること。

別記様式第 5 号（第 11 関係）

平成 年度農地等整備・保全推進事業費補助金等（ 事業）仕入れに係る消費税
等相当額報告書

番 号
年 月 日

地方農政局長 殿

〔農林水産大臣の交付決定を受けている場合は農林
水産大臣、内閣府沖縄総合事務局長の交付決定を
受けている場合は内閣府沖縄総合事務局長〕

〔住 所
団 体 名
代表者名 印〕

平成 年 月 日付け 第 号により交付決定通知があったこの事業について、農地等整備・保全推進
事業費補助金等交付要綱第 1 1 の規定に基づき、下記のとおり報告します。

記

- | | | |
|--|---|---|
| 1 適正化法第 15 条の補助金の額の確定額
（平成 年 月 日付け 号による額の確定通知額） | 金 | 円 |
| 2 補助金の確定時に減額した仕入れに係る消費税等相当額 | 金 | 円 |
| 3 消費税の申告により確定した仕入れに係る消費税等相当額 | 金 | 円 |
| 4 補助金返還相当額（3 - 2） | 金 | 円 |

（注）1 表題の 事業には、交付申請書の事業名を記載すること。
2 内訳資料、その他参考となる資料を添付すること。

財 産 管 理 台 帳

施設管理主体名：(住所)

(名称)

事業実施主体名(住所)

(名称)

農林水産省所管補助金名				地区名				事業実施年度		年度 ~ 年度			
事業の内容				工期		経費の区分			処分制限期間		処分の状況		摘要
事業種類	工種構造 施設区分	施行箇所 又は 設置場所	事業量	着工年 月日	竣工年 月日	総事業費	経費内訳		耐用年 数	処分制限 年月日	承認 年月日	処分の 内容	
							補助金 交付額	その他 (自己負担)					
						円	円	円					

(記載要領)

1. 処分制限年月日欄には、処分制限の終期を記入すること。
2. 処分の内容欄には、譲渡、交換、貸付け、担保提供等別に記入すること。
3. 摘要欄には、譲渡先、交換先、貸付け先、抵当権等の設定権者の名称又は補助金返還額を記入すること。
4. この書式により難しい場合には、処分制限期間欄及び処分の状況欄を含む他の書式をもって財産管理台帳に代えることができる。
5. 数年にわたって施行する施設については、完成した年度で記載するものとする。